

編集後記

平成23年3月31日付けで株式会社宮地鐵工所と宮地建設株式会社が合併し、宮地エンジニアリング株式会社が誕生いたしました。今後は、主力事業である新設橋梁事業、鉄構事業はもとより維持補修事業、FRP事業、海外事業など総合エンジニアリング企業として技術力を高めてまいります。

今後とも一層のご支援、ご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

宮地エンジニアリング誕生後の最初の技報である本号の巻頭言は、清宮理教授にお願いいたしました。土木業界の今後の展開への方策と題して、退潮する日本の土木業界の再建策として海外展開に関するご提案と、そのためのマネジメントと人材育成の重要性、国外基準への対応と高度技術の採用の必要性についての貴重なご意見を頂いております。先生にはご多忙のところ玉稿をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、主に東日本の道路や鉄道などの社会資本は甚大な被害を受けました。弊社は、震災直後から被害状況調査に始まり復旧工事までライフラインの早期復旧に大きな貢献をしております。その一部として首都高速・大黒JCTの復旧工事について報告しております。

また、東京の新たなランドマークであり弊社も製作から架設まで携わった橋長16kmにおよぶビックプロジェクトの東京ゲートブリッジも今年2月に開通いたしました。本号では、東京ゲートブリッジの主橋梁であるトラス橋と海上アプローチの施工について報告しております。

その他にも関門トンネルのFRP合成床版への打ち替え工事、ピロン柱斜吊り併用送出し架設を行った椿町Bo架設工事および橋梁解体工事などについて報告しております。このように、宮地の新設橋梁の架設からFRP技術および既設橋梁の補修補強に至るまで幅広い技術を報告することにより、橋梁に関する技術の向上に貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、本号は、発刊直前に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により発刊を延期しておりますが、執筆者を始め多くの関係者の御協力により本号を発刊することが出来たことに感謝致します。

宮地技報編集委員会

| | | | | | |
|------|------|-------|-------|--|--|
| 委員長 | 柿沼茂夫 | | | | |
| 副委員長 | 平島崇嗣 | 百瀬敏彦 | | | |
| 委員 | 阿部幸夫 | 梅沢真悟* | 上原正 | | |
| | 佐藤敏浩 | 鈴木義孝 | 戸井口由和 | | |
| | 中村佐吉 | 永谷秀樹* | 永見研二 | | |
| | 村上貴紀 | 吉田芳久 | | | |

*印 事務局兼務

宮地技報 第26号

発行日 平成24年11月

発行所 宮地エンジニアリング株式会社

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町19番19号

TEL 03(3639)2111(代)

印刷所 望月印刷株式会社